

会 議 概 要

会 議 の 名 称	第3回新潟市学校給食懇話会
開 催 日 時	令和5年3月27日（月）午後2時～4時
開 催 場 所	新潟市役所本館 執行部控室
出 席 者 氏 名	<p><委員>赤松 利恵（オンライン）、大坪 研一、坂井 笑美子、佐久間 沙都美、佐藤 邦栄、村井 康人、村山 伸子、山崎 瑠樹</p> <p><オブザーバー>逸見 東子、本多 一貴、渡邊 恵、富張 玲子</p>
事 務 局	井崎教育長、池田教育次長、袖山保健給食課長、田中保健給食課長補佐、曾武川指導主事、ほか保健給食課員5名
会 議 事 項	<p>1. 開会</p> <p>2. 教育長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1)今後の見直しに向けた議論</p> <p>○スクールランチの評価について、事務局説明の後、質疑応答及び意見交換を行いました。</p> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは給食時間の短さについての問題提起もあったと思うが、時間の面も懇話会からの提言に入れられるとよいのではないかな。 ・喫食時間が短いと残食率は高くなる。ランチボックスを取りに並ぶのに時間をとられ、喫食時間が短くなっている可能性もあるのではないかな。 <p>○「適切な栄養摂取による健康の保持増進」について、事務局説明の後、質疑応答及び意見交換を行いました。</p> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残食率の調査については、サンプル数を増やすことが難しければ、数年間の調査データを比較してはどうか。 ・BMI の計算方法などを示して自分の体に必要な量を生徒に考えさせることも食育になるのではないかな。 ・子どもたちが給食や栄養について自主的に考え参加できるような取り組みを。 ・全員で同じ給食を食べ、子どもたち自身が残菜の片付けを行うことでもったいない気持ちを感じるなどの機会になるのではないかな。 ・生産者、学校、行政の緊密な連携のほか、さまざまな利害関係者のきめ細かな話し合いが必要。 <p>＜スクールランチについて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とろみのあるおかずなどは温かくする工夫も必要ではないかな。ごはんの量もメニューと同様に事前に選択できればフードロス解消にもつながるのではないかな。 ・ランチ業者との連絡を密にして、残食を少なくすることに加え、メニューや量の選択ができる予約ソフトウェアの開発が必要ではないかな。 ・おかずが冷たいのには食中毒防止の意味があることなど、作ることや管理の大切さを子どもたちに伝えると、もっと受け入れてくれるのではないかな。

	<p>○村山座長より以下のような総括がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注文忘れ等で食べられない生徒が生じることの防止、生徒が自身に必要な量に調整しやすいこと、生徒自らが残食を片付けることによる食を考える機会の創出、同じものを食べることによる食育の効果、食数の変動がなく給食の安定的な提供につながることなどの理由から、中長期的には全員給食にしていくことが望ましいのではないか。 ・短期的にはスクールランチに関して、給食時間、量、温かさ、予約システムなど改善の余地がある。 ・子どもが主体的に給食にかかわることは大事な観点。 ・栄養教諭の配置についても考慮が必要。 <p>6. 閉会</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料1 スクールランチの評価 資料2 第1回の議論を踏まえた検討項目の確認 資料3 「適切な栄養摂取による健康の保持増進」について 参考資料 スクールランチアンケートの結果</p>